

同慶の至りにて供奉官の如きも斯迄に豫定に差違を來さざることは實に不思議なる事との話さへありたる程にて本校の爲めに祝着の儀にて厚く諸員の熱誠を感謝する次第なり。

⑥ 『南都七大寺大鏡』

『法隆寺大鏡』（第二卷59頁参照）の刊行が成功裏に完結するや、諸方から諸大寺大鏡刊行の要請が起つたため、本校は大正九年七月に『南都七大寺大鏡』の刊行を決定し、再び白石村治に編集を依頼した。翌十年七月、第一輯刊行、昭和四年二月、第七十六輯、補遺一輯の刊行をもって完結した。その後、同七年六月に至り、既刊の大鏡を整理したものが『南都十大寺大鏡』（全二十五卷）として刊行された。

⑦ 関野聖雲の起用と畑正吉の教授昇格

大正十年三月十七日、関野聖雲（本名金太郎）が彫刻科助教教授に任命され、高村光雲のもとで木彫実習の指導にあたることになった。聖雲の制作歴は採用時に提出された左記の履歴書に明らかである。

履歴書

本籍 神奈川縣愛甲郡小鮎村上古沢八十番地ニ於テ生ル

現住地 東京府北豊島郡王子町字王子千五十番地

戸主 平民 関野金太郎 號聖雲

明治二十年五月二日生

學業

明治三十八年十月 高村光雲氏ニ入門

明治三十九年四月 東京美術學校木彫選科入學 同四十四年三月

廿九日卒業 在學中ノ製作木彫白拍子同校ニ買上ケラル

明治四十四年 故林美雲氏ノ依頼ヲ受ケ京都府高雄山神護寺及ヒ

滋賀縣三井寺ニ出張國宝貳点ヲ摸寫ス

大正二年五月一日 第三回東京勸業展覽ニ於テ技藝褒状ヲ受ケ宮

内省御用品トナル

同二年九月二十五日 第二十七回彫刻競技会ニ於テ銅賞牌及ヒ銀

賞牌ヲ受ク

大正三年三月廿日 東京大正博覽会美術館ニ出品入選ス

同五年九月十五日 第二十九回彫刻競技会ニ於テ銀賞牌ヲ受ク

同六年九月二日 第三十回記念彫刻競技会ニ於テ委員及ヒ審査員

ヲ依頼サル 同会ニ於テ銀賞牌ヲ受ケ宮内省御用品トナル

同九年五月 日本美術協會第二部委員及ヒ第六十二回美術展覽会

委員並ニ審査員ヲ依頼サル

文部省美術展覽会ニ彫刻出品 第九回（大正四年）ヨリ同第十二

回マテ四回入選ス

同八年十月 帝國美術院第一回美術展覽会ニ出品入選ス

同九年十月 同第二回美術展覽会ニ於テ特選ヲ受ク

右之通相違無之候也

大正十年三月 右 関野金太郎 印

（大正十年職員ニ関スル書類 庶務）

次いで三月二十九日、彫刻科木彫実習担当助教畑正吉が教授に昇格した。畑は明治三十九年本校彫刻科(木彫)を卒業し、翌四十年十月農商務省海外実業練習生として渡仏。パリの国立美術学校に一年半ほど留学して彫刻を研究し、一面に於ては装飾美術に関する研究を為し、その後約一年半イギリス、イタリア、ドイツ等の美術工芸陳列館または工場を巡歴見学して同四十三年十月帰国。大正元年九月本校雇(木彫部助手)となり、同七年助教に昇格した。教授に昇格後、直ちに工芸彫刻研究のため一年間フランス、イタリアにおける在外研究を命ぜられ(追ってアメリカ在留も追加)、同年五月二日に出発、翌十一年七月二十五日に帰国した。しかし、翌八月二十一日には東京高等工芸学校教授に転任する。関野聖雲の起用は畑の辞任を見越しての措置であった。

⑧ 朝倉文夫、北村西望の起用と教室制

大正十年五月九日、本校彫刻科卒業生で帝展の代表作家である朝倉文夫と北村西望が教授(塑造実習担当)に任命された。彫刻科では前年の建島大夢の起用に続いて本年三月の関野聖雲(木彫実習担当)が起用され、さらにこの兩名の官展花形作家が起用され、教室制が実施されて、大正五年の美術学校改革運動以来の懸案がひとまず解決をみた。

朝倉文夫

朝倉文夫の経歴については幾多の文献資料があるが、ここでは本校採用時に提出された自筆履歴書を掲載する。

履歴書

原籍 大分縣大野郡上井田村大字板井迫百九拾四番地
寄留地 東京市下谷区谷中天王寺町貳拾番地

朝倉文夫

明治拾六年参月貳日生

明治貳拾参年四月 大分縣大野郡上井田村板井迫尋常小學校入学

同貳拾六年参月同校卒業

明治貳拾六年四月 大分縣直入郡高等小學校入学 同参拾年参月

同校卒業

明治参拾年四月 大分縣立大分中學校竹田分校ニ入学 同参拾五年

年九月竹田中學校修業中退學上京ス

明治参拾六年九月 東京美術学校彫刻撰科ニ入学

明治参拾九年九月 三海将銅像製作ニ應募 仁禮中将ノ像ヲ製作

シテ第一等ニ當選

明治四拾年参月廿九日 東京美術学校彫刻撰科ヲ履習シ同校研究

科ニ編入セラル

明治四拾壹年十月 第二回文部省美術展覽會ニ彫塑「闇」ヲ出品

シテ二等賞ヲ受ケ政府買上ケトナル

明治四拾貳年十月 第参回文部省美術展覽會ニ彫塑「山から来た

男」ヲ出品シテ三等賞ヲ受ケ政府買上ケトナル 同會ニ「猫」

及「老婆ノ像」ヲ出品ス

同年十月 東京美術学校研究科ヲ履修ス

明治四拾参年五月 名古屋開府三百年紀念新古美術展覽會ニ彫塑

「猫」ヲ出品シテ銀賞ヲ受ク